

平成30年 新春号



# 岐阜県本部だより

japanese government approved non-profit organization(npo) japan karate syotorenmei

発行：NPO法人日本空手松涛連盟岐阜県本部

岐阜県岐阜市森東96番地 tel(058)-229-6066

発行責任者：岐阜県本部広報部 吉村健一

岐阜県瑞穂市別府1214 tel/fax(058)326-5512

初日の出

黒帯審査

合格だ

長剛

2018年元旦 午前7時06分 岐阜市の金華山山頂 雲海の中から力強く昇りくる初日の出が全身を照らす

ほんの数時間前に見送った洛陽が、翌朝、新たなエネルギーを蓄えて再びすべての大地を照らし、ジワジワと真つ白な霜を溶かし始める。こんな当たり前の現象も、「元日」という日だけは特別な大きな意味を持つことになる。

大晦日の夜を眠い目を擦り擦り満喫した子どもたちは、一月一日が特別な日であることは承知の上、またお年玉も気になりながら、あえて普通を装って起床。少し照れながら改まって、家族間で新年のあいさつを交わす。が、心ここにあらず。小さな封筒を探して目が泳ぎ…笑顔。

人生において元旦という一年の始まりは、全ての人に与えられたビッグチャンスである。その決意をここから365日、心に留めて生活をするのはなかなか難しいだけでなく、中にはたった一週間で何を決意したかさえ忘れてしまう人も多いように思うが、兎にも角にも、それが一年の始まりであり、世界各地で一番沢山の決意が語られる日なのである。

年始のテレビ中継では、実業団に箱根駅伝と、白熱のデッドヒートが繰り広げられた。マラソンのフィニッシュには白いテープが張られる。その一本のテープ目指して、血のにじむような努力の積み重ねがあったことが走者の表情から伺える。

では空手のフィニッシュは黒いテープ、言い換えれば「黒帯」となるのだろうか。と思いがちだが、実は黒帯を締めてからが、空手道の本当のスタートだと思いたい。道はどこまでも続く。勇気をもって一歩踏み出せば、その足跡が道となり、切り拓くも自分、踏み止まるも自分、引き返すも自分。空手道において赤子だった自分が、立ち上がり、歩む為に必要な精神と技術を体得し、やっとスタートに立つ資格を与えられた証が「黒帯」である。黒帯を締め、更に高度な精神と技術の鍛錬を経て、そう駆伝のたすきの様に、次の世代に伝承するのも黒帯の役割、空手道の心得ではないだろうか。まずは黒帯奪取、決意の先に叶える夢……

(吉)

# 岐阜県濃飛支部長 園原武嗣先生、韓国ナショナルチーム監督に就任決定！

ごあいさつ

私事ですが、この度、園原武嗣は、本年2月より一年間（2月18日から移住）、韓国空手道連盟代表ナショナルチームの監督として着任することとなりました。

（韓国空手道連盟から全空連と松涛連盟総本部に指導者派遣の要請。香川首席師範からご指示を受け園原は今年11日に韓国ソウル市内において韓国空手道連盟会長・役員方々と面接。期間は一年契約で更新もありうる。）

任務の目的は、一つはその国（韓国）のナショナルチームにおいて最高の成果を上げること。もう一つは世界の空手道の発展のために日本の空手家の一人として貢献することです。

私にそのような責任重大な任務が達成できるかどうか…これまでに体験したとのないような大きな重圧を感じます。しかし、命懸けでこの度の任務にあたる覚悟を決めて、日本の空手家の一人として世界の空手道の発展と、空手道を通しての平和活動に微力ながらも何かしらの貢献ができるよう、精一杯の仕事を成し遂げたいと思います。

任務期間中は、岐阜県、東海北信越、総本部等のそれぞれの行事等への出席、お手伝いをさせていただく機会が少なくなることを思います。誠に恐縮ですがよろしくお願い申し上げます。

皆様の益々のご発展とご健康をお祈り申し上げ、ごあいさつとさせていただきます。 押忍

平成30年1月吉日



左から系東会 新城 武 氏（日本人J-1）、全空連系東会副会長 東海 誠 先生、韓国空手道連盟事務総長 李根洙 (Lee Keunsoo) 氏、園原先生



韓国ナショナルスポーツトレーニングセンター鎮川（ジンチョン）選手村の施設敷地内。この選手村は全てのスポーツ競技種目の韓国代表ナショナルチームの選手専用の練習施設。あらゆる競技種目の専用練習場が完備されており、本格的な巨大トレーニングルームも完備。今年2月に新設オープン。選手は全員センター内の寮で生活し、毎日2時間×4回の練習やトレーニングを行う。寮の食堂ではスポーツ選手のために栄養バランスの良い食事も毎日選手達に提供される。全ての種目のナショナルチーム選手は政府から給料が支給され年間を通して練習と試合に集中することができる。

右画像は空手道選手専用の道場。試合用コートが4面用意されていても余裕の広さ。WKF 国際大会用マットが道場全体に敷き詰められている。格闘技棟は、柔道、剣道、ボクシング、テコンドー、空手道、レスリング等のそれぞれの練習場が各階ごとに用意されている。

## 全日本選手権、総本部渡邊大輔指導員 念願の初優勝！



平成29年12月10日、国内最高峰の第45回全日本空手道選手権大会が日本武道館で行われ、松涛連盟総本部の渡邊大輔（わたなべだいすけ）（28）指導員が男子個人組手で初優勝を飾った。決勝の相手は昨年の世界選手権84キロ級で優勝し、この大会3連覇中の荒賀龍太郎選手。どの試合もオリンピックを彷彿させる盛り上がりを見せ、日本武道館来場者数はのべ11,617人と超満員。特にこの決勝戦は異様なまでの熱気に包まれ、あの巨大な武道館が揺れに揺れた。

大学時代から挑み続け、やっとつかんだ日本一。現在も母校の帝京大で週6日、1日最大5時間半にも及ぶ練習量をこなす。その風貌とはかけ離れた優しく、繊細なキャラクターから、老若男女問わず国内外での人気は群を抜く。今回、特別にこの岐阜県本部だよりの為に、渡邊選手本人からコメントを頂きました。

岐阜県の皆様、明けましておめでとうございます。本年も宜しく願ひ致します。昨年行われた全日本選手権で初優勝することが出来ました。優勝する事が出来たのも香川首席師範をはじめ、応援してくれている方々全てのおかげです、本当に感謝しています。今の空手は技術や戦略に走りがちになっていますが、普段の稽古で本能を磨け！と指導を受け、それを忠実に守り、最後までつしに勝てたと言う事がただ嬉しかったです。香川師範の空手が強いと言う事が証明出来たし、松涛連盟の都道府県の先生方、生徒の皆さんに少しでも勇気を与える事が出来たと思います。

これからも日本人にしか出来ない日本の強い空手でどんな相手にも思い切りぶつかって行きたいと思っています。これからも皆様に勇気と感動を与えられる選手になれるよう1日1日を大切に、全力で稽古に励んでいきます。今後とも応援の程、宜しくお願いいたします。



### H30年 JKS 岐阜県本部 年間行事予定表 (1月26日現在の予定です。変更の可能性もありますので、ご注意ください)

2月11日 JKS 技術講習会・資格審査会（北方町総合体育館）  
3月18日 昇級・昇段審査会（メモリアル）  
4月1日 全空松 東海大会（愛知県岡崎市）  
4月30日 JKS 日本・NIS 親善 岐阜県空手道選手権大会（メモ）  
6月3日 昇級・昇段審査会（アリーナ） ※注：段審査会があります  
6月24日 JKS 東海北信越大会（愛知県岡崎市）  
7月21日～22日 JKS 全国空手道選手権大会（愛媛県松山市）  
9月2日 昇級審査会 ※注：段審査はありません  
9月23日 全空松 全国大会（日本武道館）

11月18日 県本部常任理事会・理事会 西部体育館  
11月25日 JKS 東海地区技術講習会・資格審査会（メモ）  
12月2日 昇級・昇段審査会 ※注：段審査があります

#### <段審査会の開催月変更について>

今後、段審査会の開催を現行の3月9月から、6月12月開催へと変更するため、調整期間となる今年度に限り3月、6月、12月の3回の段審査会を開催します。よってH31年より段審査会は6月と12月の開催となります。